

ひろさき認知症あんしん生活実践塾(1期生)症状と経過

症状数 (合計)	症状の改善(内訳)				
	消失	ほとんど改善	中等度改善	一部改善	変化なし
33	6	2	12	4	9
100.0%	18.2%	6.1%	36.4%	12.0%	27.3%

No.	参加者	実践対象者					症状の改善				
		年齢	性別	要介護度	症 状	消失	殆ど消失	中等度消失	一部消失	変化なし	
1	参加者 Aさん 一般市民	85	女	1	①デイサービスに行っていない日は、ソファーに横たわりテレビを見てボーとしているか眠っていることが多い。 ②トイレに行く回数は1日7~8回(夜間は1~2回) 多少ふらつきあり見守りが必要である。 ③多少の物忘れ(短期記憶障害)はある。 ④新聞は、見出しの大きな文字だけ見て内容は読もうとしない。 ⑤洗濯物をたたむ時、タオルは正確にたたんでいたが、下着類はきちんとたためていない(単純作業のみ可能)。 ⑥まちがいを探しやお金の計算などかんたんな脳ドリルをしてもおおざっぱで正確さにかけている。			○			
2	参加者 Bさん 一般市民	74	男	2	①夕方になると外出したくなる。 ②家ではほとんどソファに横になっている。 ③トイレに行く時は、大か小か確認する。下剤を飲んだ日は特に気を付けるようにしている。そうでないと流れ出るように何回も出たし本人もどうすればよいのか戸惑ってしまい、汚してしまい大変なことになる。 ④自宅にいる際、「泥棒がいる」や「誰かいる、こっちを見ている」等話す。 ⑤息子と娘を小学生だと思っており、帰りが遅いと心配している。 ⑥トイレの場所がわからず、トイレ以外の場所へ排泄してしまう。					○	
3	参加者 Cさん 一般市民	84	女	3	①トイレの使い方がわからなくなる時があり、便座に座ろうとしない。 ②毎回入浴しているが「初めてこの風呂に入った」と言っている。 ③床に座り「猫いた」と言い猫をなでる仕草をしている。 ④今住んでいる場所を学校だと思い「先生どこに行った?」と職員や他利用者を探ることがある。 ⑤台所に来て、洗っていない茶碗の区別がつかず全て拭いている。 ⑥「家に帰る」と帰宅願望がみられる。(特に夕方・起床後(午後4~5時)朝食後に多い。 ⑦他の人が話していたり笑い合っているのを見て「自分のことを悪く言っている」と被害妄想がみられている。 ⑧物をとられると発言する。 ⑨昼夜問わず急に感情が高まり興奮状態になることがある。 ⑩落ち着かず、玄関へ向かう、廊下を徘徊し他利用者の居室へ入ろうとする。 ⑪誰もいないところを指さし、「二人いる」と話すことがある。	○				○	
4	参加者 Dさん 一般市民	83	男	4	①「おしっこ」と言って、トイレに行くともうすでにパッドにしている(排泄行為が難しく、便座に座ってもらえない)。 ②行って欲しい事に対して、分からないときは機嫌が悪くなり拒否をする。その後、少し間を開けると、拒否もなく行ってもらえる(理解ができないようで、働きかけが難しい。自分が出来ないときに大声を上げ怒る。 ③独り言が多い。話がまとまらずに、会話が出来ない。				○	○	
5	参加者 Eさん 施設職員	92	男	3	①日中、毎日、時間を問わず何度も「お金を払えないから家へ帰る」と発言する。 ②「ここにいられない」と言って外へ出ていこうとする。 ③デイサービスからの帰宅時は不穏である。 ④デイサービスからの帰宅時は不穏である。「またここに連れて来られた」「家へ行く」と毎回興奮気味である。 ⑤週に2~3回、夜半でも荷造りをし外へ出ていこうとする。	○			○		
6	参加者 Fさん 施設職員	86	女	1	①自分から話しかけたり、行動をしようとすることはない(自発性低下、無為、無動) ②見当識の低下、記憶力の低下				○	○	
合計						6	2	12	4	9	